

食欲の秋？ならぬ勉学の秋です。 各学年学習に励んでいます！！



各学年 学びの様子をご紹介

1年生

9月27日(木)

お昼のメニュー
常食
米飯
味噌汁
中華丼
ポテトサラダ

基礎看護学



食事の援助技術演習

「私に美味しく食べさせて」という課題で、Aさん、Bさん、Cさんの状況にあった食事の援助を考え、発表し、学びを共有しました。

ナイチンゲールの「看護師は、ただの配膳人になってはいけない」ということはどういうことなのか・・・？それぞれ考えることが出来ました。

私に美味しく食べさせて

Aさん 40代女性。肺がんのため初めての入院。
食欲不振。熱がある。37.5度~37.8度程度。坐位可。自分で食べられる。肺がんのため、抗がん剤治療目的のため入院。
治療について、病気について不安がある。



Bさん 60歳代男性。一人で最後まで食べることが難しい。
慢性閉塞性肺疾患の回復期。呼吸は落ち着いている。
疲れやすい。坐位可。途中から介助が必要。
食べたい気持ちはあるけど、疲れるから長時間は食べられない。



Cさん 20代女性。右前腕骨折(利き手)及び左下腿骨折のためギプス固定。ギャッチベッド30度までの挙上が可能。
仰臥位しかできない。利き手が使えないため、介助が必要。

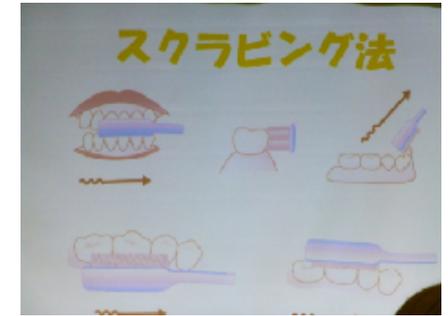
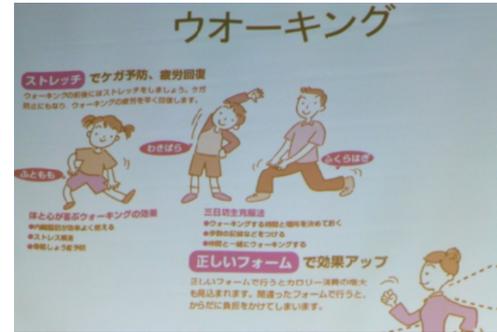


A 様	
年齢 40歳代	性別 女性
身長 165cm	体重 50kg
主病 肺がん	主訴 食欲不振、熱、下痢
既往歴	アレルギー 牛乳、卵、小麦、大豆、魚、鶏卵

2年生

事例

成人看護学



1916.4.25
第8: 第9

人の健康と生活を支える看護

保健指導 事例

1 Q: 保健指導【お仕の健康教室】

- 関係施設管理センター主催
- 2名講師から、関係施設、婦人科外来、健康増進センター、院内医科、ホームページに掲載する際の健康増進センターの協力を受けること、健康増進センターの申し込みができた。
- 参加者：17名（参加費：4,000円、5,000円、6,000円）
- 講師科外来のときと申し込みした人4名、ホームページに掲載し申し込みした人2名を計

2 Q: 保健指導【メタリックシンドローム教室】

- 関係施設管理センター主催
- 2名講師から、関係施設、内科外来、健康増進センター、院内医科、ホームページに掲載する際の健康増進センターの協力を受けること、健康増進センターの申し込みができた。
- 参加者：17名（参加費：4,000円、5,000円、6,000円）
- 講師科外来のときと申し込みした人4名、ホームページに掲載し申し込みした人2名を計

3 Q: 保健指導【お仕の健康教室】

- 関係施設管理センター主催
- 2名講師から、関係施設、婦人科外来、健康増進センター、院内医科、ホームページに掲載する際の健康増進センターの協力を受けること、健康増進センターの申し込みができた。
- 参加者：17名（参加費：4,000円、5,000円、6,000円）
- 講師科外来のときと申し込みした人4名、ホームページに掲載し申し込みした人2名を計

4 Q: 成人看護：特定保健指導：継続的支援（初回）

○人数 担任 指導員（指導員）

【指導時のデータ】		○指導の開始日時	
出席	25/31	出席	25/31
出席率	81%	出席率	81%

【指導時の感想より】

- 指導4名の参加者、指導員を利用する、なるほどと聞き取りと質問している。
- 講師科、先生、ズボンのウエストがきつくなったような気がする」と話していた。
- 「よほどいいのが好きで着せたい」と話していた。
- 指導員がきいて、適切な指導、褒め指導をする。
- タバコは吸わないが、酒が大好きで、健康増進センターで、

5 Q: 成人看護：特定保健指導：継続的支援（初回）

○人数 担任 指導員（指導員）

【指導時のデータ】		○指導の開始日時	
出席	25/31	出席	25/31
出席率	81%	出席率	81%

【指導時の感想より】

- 参加者平均年齢は50歳前後で、1名が中高年世代に属している。健康増進センターに属している。
- 講師科、先生と話をしている、指導員がきいて、適切な指導、褒め指導をする。
- 講師科外来のときと申し込みした人4名、ホームページに掲載し申し込みした人2名を計

6 Q: 成人看護：特定保健指導：継続的支援（初回）

○人数 担任 指導員（指導員）

【指導時のデータ】		○指導の開始日時	
出席	25/31	出席	25/31
出席率	81%	出席率	81%

【指導時の感想より】

- 参加者平均年齢は50歳前後で、1名が中高年世代に属している。健康増進センターに属している。
- 講師科、先生と話をしている、指導員がきいて、適切な指導、褒め指導をする。
- 講師科外来のときと申し込みした人4名、ホームページに掲載し申し込みした人2名を計



「成人の健康と生活を支える看護」

健康維持期にある対象に、生活習慣病予防のための集団指導、個別指導の実際を、実施しました。

グループごとに1事例を担当し、指導案を立案、ロールプレイの実施、その後意見交換をしました。

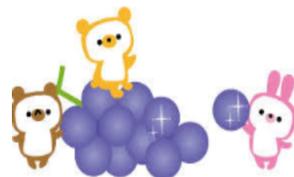
人を指導するためには、事前の準備が大切であることや、指導する側が知識を持っていないかもしれないことなどを学びました。

興味を持っていただくためには、一方的にならないよう参加をしてもらうこと、相手の反応を確認すること、メリハリをつけることが大切であると学びました。



3年生

臨地実習



看護学生看護研究学会 発表

看護学生看護研究学会にて、3年生の代表者が下記のタイトルで、口演発表致しました。

「タッチングによる痛みの緩和
—変形性膝関節症のある患者との関わりを通して—」

実習中の看護の実際を、文献を通して深めることが出来ました。
タッチングするという事は、鎮痛という身体的な側面ばかりではなく、精神的に安心感や、信頼感につながる事を学びました。

研究をまとめ上げるためには、何回もの推敲があり、その過程が重要であることを学びました。

当日、沢山の聴衆の前での発表は緊張しましたが、良い経験になりました。



実習の後半。病棟実習を終え、さらに広い視野を身につけるため、地域へと学びを広げています。

2025年にむけて、地域で人々が生き生きと生活できるため、どのような職種の方達が、どのような取り組みをしているのか、その実際を学んでいます。

都内の看護学生の方達から、沢山の刺激を受けました。

